



「取った魚を廃棄させられた。ほんま泣いた」「みんな被曝者を嫌うけん。娘にはだまつちよつた」スクリーンに高齢の漁師たちが次々と映し出され る。高知県に住む彼らが語

グローバル ヒバクシャ 被爆76年

4

私も「死の灰」浴びたのに

ビキニ被曝 元船員の声映像化

1954年に太平
洋のビキニ環礁周辺でマグ
ロ漁船を操業中、米国の水
爆実験で被曝した体験だ。

この記録映像を制作した
のは同県四十町の映画監
督、甫木元空さん(29)。6
月中旬から7月初めまで、
同県須崎市のギャラリーで
展示された。

され、米政府が2000万ドルの見舞金を支払う「政治決着」がなされた。それ以外は救済対象にならなかつた。

に埼玉から移住して初めて他の漁船の被害を知った。
「漁船員の高齢化が進み、あと10年経つたら声を聞けなくなってしまう」。県内

市)の集会をのぞいた。ビ
キニで被曝し、体調不良を
訴える元マグロ漁師が集ま
つていた。「自分一人じゃ
なかつたと涙が出ました」

られ、54年には別の二つの環礁も避難対象となつた。核実験被害に詳しい明星大学の竹峰誠一郎教授によると、マーシャルでは、核

実験の被害の補償を審査する独立組織が設置されてい
る。46～58年の核実験期間中にマーシャルで暮らして
おり、対象となる疾患を発症したという証明があれ
ば、被害を推定し補償する
と定めている。

市)の集会をのぞいた。ビ
キニで被曝し、体調不良を
訴える元マグロ漁師が集ま
つていた。「自分一人じゃ
なかつたと涙が出ました」

られ、54年には別の二つの環礁も避難対象となつた。核実験被害に詳しい明星大学の竹峰誠一郎教授によると、マーシャルでは、核

2015年には胃がんと肝臓がんを発症した。

川語島の住民236人が被曝したと同年に公表した。一方、ビキニ、エニウェトク両環礁の住民は46～47年に米国によって移住させ

約1か月後に帰港し、尿や血液の精密検査を受けた。体調に異変はなかったが、30代から立ちくらみがひどくなり、40代で歯が次々と抜けた。80歳を過ぎた

後ろ向きだ。「言葉にできん
ような腹立ちを感じます」。
米国は第13光榮丸が被曝
した1954年3月1日の
水爆実験に限り、マーシャ
ルズ島の住民230人が被

も合ひで2人を取りました
その一人が土佐清水市の
谷脇寿和さん(86)だ。19
54年3月1日、「第13光
榮丸」の上で「死の灰」を
浴びた。当時19歳。「甲板
で作業中、海の向こうがび
かつと光った。稻妻と思つ
た」と振り返る。

各船さんと漁船員さんは1年、「被曝の事実を隠した」として国に損害賠償を求めて高知地裁に提訴した。18年の判決で漁船員の被曝は認定されたが、「国に追跡調査や支援の義務はなかつた」として請求は棄却された。二審の高松高裁も一審

も含めて2人を取扱した
その一人が土佐清水市の
谷脇寿和さん(86)だ。19

各艦さへは海軍員らは1年、「被曝の事実を隠した」として国に損害賠償を求め

業していたといわれる。静岡県のマグロ漁船「第五福龍丸」の被曝は大きく報道

インタビューに答える谷脇寿和さん＝2021年7月2日午後、高知県土佐清水市、小川智撮影

甫木元空さん＝2021
年7月1日午後、高知県
須崎市、小川智撮影

本政府も積極的に補償をするべきだらう」と話す。
(山崎毅朗)